

大学生のキャリア意識に関する実態調査

—中国の外国語大学を事例として—

朴 慧淑* 渡邊 憲二**

要旨

本研究は、中国の6つの外国語大学の大学生464名を対象に、キャリア教育およびキャリア意識に関する実態調査を行った。具体的には、アンケート調査から、大学のキャリアに関する教育内容、大学生のキャリア意識、および就労意識などを明らかにし、中国の大学生におけるキャリア支援の必要性について検討したものである。調査結果から、キャリア教育関連の指導を受ける学年によって学生の満足度が変化し、中国の大学生が求めるキャリア支援も多様化している。さらに、キャリア教育への需要(学生の欲求)が増えていることが確認された。本研究を通して、中国の外国語大学における学生へのキャリア支援に有効的な提言を図るとともに、大学生の就職活動にも実践的な意義があることを期待したい。

キーワード：

中国大学 キャリア教育 キャリア意識

I. はじめに

中国では、キャリア教育への関心が日々高まっている。従来、キャリア教育は、職業技術

大学(専門学校)を主として指導・提唱・実践されてきた。現在では、各大学にキャリアセンターが設けられるほど普及が拡大しつつある。2019年には、中国の大学生数は3,031.5万人にのぼり、2020年の大学卒業生人数は874万人になっている。また、2020年7月上旬¹に行われた中国大規模の大学入試センター試験の受験者は1,071万人になり、史上最多となった。毎年、増加する受験者数と大学の募集人数に伴い、大学生を受け入れる高等教育機関は大学生の卒業進路への指導だけでなく、社会から問われる一般的なキャリア指導が不可避な状況になっている。

また、社会の様々な不安定要因によって、就職の競争率の激しさが増し、学生個人のキャリア指導、および社会から求められる人材教育・育成は注目すべき課題である。例えば、2015年に中国の教育部が発表した『職業教育教學の改革を深め、全面的に人材育成品質を高めることに関する若干意見』では、持続可能(SDGs)なキャリア教育への注目が呼び掛けられている²。それに続き、2017年の中国国務院が発表した『産学連合における若干の意見』では、キャリア教育はもはや専門学校のみならず、大

* 大連外国語大学ソフトウェア学院講師、研究分野：日本語教育・キャリア教育・人的資源管理

** 岡山商科大学経営学部教授、研究分野：消費者行動・経営学

学の必須科目として、大学生のキャリア指導に注目すると同時に、今後のキャリアデザインの関連指導も行うように呼び掛けられている³。こうした国の政策に対応するように各大学は、就職指導・キャリアプランなどキャリア教育に関する諸科目を設置している。

本研究では、中国の大学生を対象として、各大学が提供するキャリア教育への満足度を測定し、さらに大学生の職業観の実態を把握する。具体的には、外国語大学で日本語を専攻とする大学生のキャリア教育への意識を明らかにし、日系企業への就職や日本への留学などを含んだ進路選択を考察する。さらに、中国国内の大学によって育成される日本語人材を通して、今後、中日経済発展にいかなる役割を果たすのか、また中国国内の外国語人材にはどのようなキャリア教育や指導が求められるのか、について検討する。

II. 先行研究のレビュー

中国の大学におけるキャリア教育に関する研究は、主に心理学分野と教育学分野がある。前者では、大学生の職業価値観の特徴を測定することが一般的に行われている。後者では、キャリア科目の有効性などを考察するのが一般的となっている。しかしながら、両者とも大学生の価値観と大学のキャリア教育の関係性、主に大学生への影響力や教育効果を示している研究はそれほど多くは見られない。夙他 (2012) は、中国における大学生の職業観を成長意欲・自立性・自己保護意識・社会責任感・伝統的な家庭意識を基に分析を行い、大学生の職業観は成長意欲が一番強く、そして自己の価値観を実現することを最も望んでいるとしている。また、性

別、一人っ子、理科系と文科系、出身地域によっても、その職業価値観が異なっていることを明らかにしている。黄 (2012) では、7つの異なった地域の大学生を対象に、定量かつ定性的アプローチを用いて、「成長発展」・「人間関係」・「面子声望」・「現実主義」・「安定満足性」・「儒学思想」・「親孝行精神」・「集団主義」の8つの因子に有意性を見出し、中国の独特な大学生の就労意識や価値観を考察している。これらの研究は、心理学や社会学の角度から中国の大学生の職業価値観、およびキャリア意識の各因子について分析を行い、その特徴と問題点、および今後の大学側のキャリア指導教育に有効な理論根拠を提供している。

また、外国語大学のキャリア教育の現状に関して、顾 (2017) は大学生キャリア意識を、「現実型」・「研究型」・「芸術型」・「社会型」・「企業型」・「一般型」など多元化した特徴として捉えている。大学生のキャリアプランにおいては、在学段階における未確定であるという問題点、さらには外国語専攻の特徴が生かされず就職競争においては十分な効果や影響力がないことを指摘している。また、杨他 (2017) は、中国四川師範大学の外国語学部生 100 名を対象にキャリア教育の現状分析を行っている。低学年からのキャリア科目設置が有効であり、大学 1 年から 4 年までのキャリア意識を段階別に「自己探索期」・「キャリアプラン開拓期」・「職業範囲縮小期」・「職業選択期」の 4 つに分けて提供・指導することの有効性を指摘している。

しかしながら、大学生のキャリア意識に対して、大学が提供しているキャリア関連教育の内容や効果、さらには大学生の満足度については十分に検証が行われていない。そこで、本研究

では、これらを意識した研究を意図している。その特徴として、第1に、調査対象は、中国の外国語大学で日本語を専攻している大学生とした。特に、外国語大学で実施しているキャリア教育の実態、ならびにキャリア意識を検証することである。第2の特徴は、中国の外国語大学の低学年から高学年への大学生のキャリア教育現状に関する満足度を測定し、職業選択におけるキャリア意識・就労意識・職業価値観によるキャリア教育の実施時期における有効性を検証することである。

Ⅲ. 研究方法

1. 調査対象

本研究の調査対象は、中国の6つの外国語

大学（北京外国語大学・西安外国語大学 天津外国語大学・上海外国語大学・広東外貿外国語大学・大連外国語大学）で日本語を専攻している大学生である。アンケート調査（以下、「本調査」と略称する。）に回答した学生は、464名である。調査期間は、2019年10月18日より同年12月17日である。本調査の学部・性別・学年別の回答者数に関する情報は、表1のとおりである。

本調査における回答者の属性に関しては、男性73名(15.7%)、女性391名(84.3%)であった⁴。また、学年の内訳は、2年生166名(35.8%)、3年生143名(30.8%)、4年生155名(33.4%)である。

表1 本調査の学部・性別・学年別回答者数

大学名称		学部 ⁵		性別		学年	
北京外国語大学	42 人	日本語	462 人	男	73 人	1 年生 ⁶	0
上海外国語大学	18 人	非日本語（文系）	1 人	女	391 人	2 年生	166
天津外国語大学	297 人	非日本語（理系）	1 人			3 年生	143
西安外国語大学	33 人					4 年生	155
広東外語外貿大学	14 人						
大連外国語大学	60 人						

2. 調査方法

本調査においては、中国のアンケート専門サイトである『問巻網』⁷を活用した。インターネットによる質問票調査は、パソコンやスマートフォンなどの情報機器を利用して行われた。質問項目のリンクを中国最大SNSであるWeChat（ウィチャット）を通じて、調査対象の大学生に発信した。この調査方法が、回答者の負担も少なく、最も有効的であると判断した。

質問項目の作成においては、坂柳(1996)の『キャリア・レディネス尺度』を参考に、計18問を設定した。なお、回答者の平均回答時間は5分46秒であった。本調査の分析において、アンケート集計には有効回答数464を使用した。統計分析に用いたデータ数は、データに欠如があったものを除いた461である。

IV. 分析結果

1. 大学生のキャリア意識・職業観

(1) 職業選択で影響を受ける要因

最初に、各学年生の大学のキャリア教育現状に対する客観的な評価を調査した。職業選択で影響を受ける要因については、表2のとおりである。具体的には、「あなたが職業を選択す

るとき、何の影響を一番受けているのか」という質問である。集計結果から、影響力が大きかった順に「自分の興味」、「社会の流れ」、「親の意見」であった。これからは、自己・社会・両親の影響が強く、友人や先生からの影響は非常に少ないことが分かる。

表2 職業選択で影響を受ける要因(N=464) 複数あり

項目 \ 順位 回答数	第1位		第2位		第3位	
1. 親の意見	4	17.23%	73	27.34%	148	55.43%
2. 自分の興味	303	68.09%	110	24.72%	32	7.19%
3. 友人の意見	3	6.67%	10	22.22%	32	71.11%
4. 先生の意見	4	3.25%	33	26.83%	86	69.92%
5. 社会の見方	6	4.48%	42	31.34%	86	64.18%
6. 社会の流れ	102	26.98%	196	51.85%	80	21.16%

(2) 中国国内での就職

もしくは創業を選択する理由

この点については、日本の大学生とは異なっている。一人っ子政策の下に生まれた中国独特のキャリア意識の1つのように考えられるが、それを示したのが表3である。これは、国内での就職もしくは創業を選択する理由を尋ねたものである。

具体的には、卒業進路において「就職」を選んだ221名の回答を分類したものである。就職を希望している回答者の175名が国内就職を志向し、その中でも「家族」の要因を志向理

由とする回答者が58名いた。一方、海外就職、あるいは創業を選んだ学生は46名で、そのうち22名は、グローバル環境で仕事経験を積み重ねたいと回答している。これらのことから、外国語を専攻してはいるものの、中国国外での就職を希望する者は少ないことが分かる。これは、いわゆる中国国内での就職における希望志向が強いことと、留学や国外での就職に対する興味関心の低下があると推測される（なお、9名の学生は中国国内での就職は難しいと回答している）。

表3 中国国内での就職もしくは創業を選択する理由(N=464)

項目	回答数	比率
1. 興味のある仕事が見つかるから	66	29.86%
2. 家族に近いところで仕事をしたいから	58	26.24%
3. 中国の経済発展は最も多い機会を提供するから	51	23.08%

(3) 進路や企業への期待要因

今後の卒業進路、および企業への期待に関して、複数回答で尋ねた結果が表4である。回答者数の多い順に、「自己成長」が55.4%、「高賃金」が36%、「海外で仕事できる機会」が34.7%、「自分の好きな仕事内容」が31.7%、「高基準の福利厚生」が30.8%で、いずれも3割強となっている。また、「明確な昇進基準」も比較的高く、23.1%の人が企業に求める条件の1つになっている。これらの要因は、高賃金、福利厚生、および昇進基準が物質的な要因である一方で、自己成長や海外就職機会はキャリア関連の要因である。外国語大学生の職業選択において、本調査から最も重視しているのが物質

的な欲求であり、これは、マズローの5段階欲求階層論⁸で第2段階の安全的欲求に当てはまる。

これらの質問項目に関する集計結果から、外国語大学生のキャリア意識、および職業観において最も著しい特徴として、「家庭意識」と「物質的欲求」が見られる。外国語大学生の国外への注目度が割と低く、国外よりも国内、しかも家族に近いところでの就職を希望していることから、強い家庭意識が確認される。国外での仕事ができる機会を求めているが、それは国内企業に入社してからの期待要因であることから、短期間の海外派遣などを求めているのではないと思われる。

表4 進路や企業への期待要因(N=464) 複数あり

項目	回答者(人)	比率(%)
1. 海外で仕事できる機会	162	34.7
2. 自己成長	257	55.4
3. 明確な昇進基準	106	23.1
4. 仕事以外の生活サポート	85	18.3
5. 高賃金	166	36.0
6. 高基準の福利厚生	145	30.8
7. 社会への貢献度	26	5.8
8. 仕事の安定性	67	14.4
9. 自分の好きな仕事内容	148	31.7
10. 残業が少なく、余暇の取れる職場	69	14.9
11. 良好な職場人間関係	61	13.1
12. 自分の好きな出勤地	21	4.5
13. 企業の知名度	12	2.8
14. 社内キャリア開発機会	45	9.7
15. 昇進できる速度	3	0.6
16. 公正的な評価基準	16	3.4
17. その他	2	0.4

2. キャリア教育の満足度

本調査では、外国語大学のキャリア教育の満足度において、五段階尺度を用いた。具体的には、「非常に満足」「やや満足」「どちらとも言えない⁹⁾」「あまり満足しない」「満足しない」である。キャリア教育の満足度に関して、表5のとおりである。そのうち、「非常に満足して

いる」学生が全体の13.2% (61名)、「やや満足している」と答えた学生が一番多く43.6% (202名)で、その次が「どちらとも言えない」と答えた学生が172名で37.1%になる。それに対して、「あまり満足しない」と「満足しない」と答えた学生は少なく、それぞれ全体の5.8% (27名)と0.2% (1名)になった。

表5 キャリア教育の満足度(N=463)

	非常に満足	やや満足	どちらとも言えない	あまり満足しない	満足しない	合計
回答数(人)	61	202	172	27	1	463
比率(%)	13.2	43.6	37.1	5.8	0.2	100

注：回収した質問票のうち1部は無効回答であったため、有効回収数は463部である。

次に、大学生が参加した経験のあるキャリア教育形式についても複数可で回答してもらったのが、表6のとおりである。そのうち、一番参加した経験の多いキャリア教育形式としては、「就職指導教育課程」で324名、全体の69.8%を占めており、次に「就職報告会或いは経験交流会」や「就職情報の提供」、「キャ

リアデザインに関する講座」を受けた学生が多く、それぞれ272名・213名・196名になった。それに対して、受けたことがもっとも少ないキャリア教育形式としては「海外インターンシップ機会の提供」で、464名のうち55名の学生しかなく、全体の11.9%を占めている。

表6 参加した経験のあるキャリア教育形式(N=464) 複数あり

項目	回答者(人)	比率 (%)
就職指導教育課程(科目)	324	69.8
就職報告会或いは経験交流会	272	58.6
就職情報の提供	213	45.9
国内インターンシップ機会の提供	118	25.4
海外インターンシップ機会の提供	55	11.9
募集する企業の関連情報	170	36.6
更に自己分析できる講座	118	25.4
キャリアデザインに関する講座	196	42.2
社会人や卒業生と交流できる機会の提供	122	26.3
学生参加型講座	157	33.8
その他	8	1.7

3. キャリア教育における満足度の形成要因

本研究では、外国語を学ぶ大学生を対象として、キャリア教育の満足度に及ぼす要因を明らかにし、キャリア教育による人材育成プログラムに有効的な提言を図ることが目的である。そこで、アンケート調査によるデータを用いて、キャリア教育の満足度の形成要因について実証分析を行った。分析に用いた変数に関しては、表7のとおりである。分析方法として、順序ロジット・モデル (Ordered Logit Model) を用いて分析を行った。

分析では、目的変数として、「キャリア教育の満足度」を設定した。変数に関しては、「非常に満足」を5、「やや満足」を4、「どちらとも言えない」を3、「あまり満足しない」を2、「満足しない」を1とする5項変数である。変数は、数値が高くなるほど、学生の満足度が高くなる

ように設定している。

次に説明変数に関して、『性別』は女性を1、男性を0とし、『学年』は「大学四年生」を4、「大学三年生」を3、「大学二年生」を2とした。「参加した経験のあるキャリア教育形式」については、表6のように全部で11変数と設定した。それぞれの変数に関しては、「参加したことがある」ならば1、「参加したことがない」ならば0とした。

また、各学生における卒業の計画について、『就職』、『創業』、『進学』の3変数を加え、それぞれの変数が「そのつもりである」ならば1、「そのつもりがない」ならば0とした。職業選択において影響を及ぼす要因と満足度の関係も計測するため、「最も影響を受けている」は1、「その他」は0とした。

表7 分析に用いた変数

	変数		定義
目的変数	キャリア教育の満足度		非常に満足＝5；やや満足＝4；どちらとも言えない＝3；あまり満足しない＝2；満足しない＝1
説明変数	性別		女性＝1；男性＝0
	学年		2年生＝2；三年生＝3；四年生＝4
	参加した経験のあるキャリア教育形式	就職指導教育課程(科目)	参加したことがある＝1；ない＝0
		就職報告会或いは経験交流会	参加したことがある＝1；ない＝0
		就職情報の提供	参加したことがある＝1；ない＝0
		国内インターンシップ機会の提供	参加したことがある＝1；ない＝0
		海外インターンシップ機会の提供	参加したことがある＝1；ない＝0
		募集する企業の関連情報	参加したことがある＝1；ない＝0
		更に自己分析できる講座	参加したことがある＝1；ない＝0
		キャリアデザインに関する講座	参加したことがある＝1；ない＝0
		社会人や卒業生と交流できる機会の提供	参加したことがある＝1；ない＝0
		学生参加型講座	参加したことがある＝1；ない＝0
		その他	参加したことがある＝1；ない＝0

説明変数	卒業後の進路	就職	そのつもりである＝1；ない＝0
		創業	そのつもりである＝1；ない＝0
		進学	そのつもりである＝1；ない＝0
	職業選択に影響を及ぼす要因	親の意見	最も影響を受ける＝1；その他＝0
		自分の興味	最も影響を受ける＝1；その他＝0
		友人の意見	最も影響を受ける＝1；その他＝0
		先生の意見	最も影響を受ける＝1；その他＝0
		社会の見方	最も影響を受ける＝1；その他＝0
		社会の流れ	最も影響を受ける＝1；その他＝0

分析に用いたデータ数は、データに欠如があったものを除いた 461 である。モデルの推定は、統計パッケージ R(version 4.0.0) の MASS package を用いた。分析は、変数減少法を用いて、1 以下の t 値が表れなくなるまで変数を減らし、AIC(Akaike's Information Criterion) が最小になるように行った。なお、分析結果は表 8 のとおりである。分析結果を見ると、パラメータに関して、『就職指導教育課程 (0.880)』は正值であり、有意水準 1% で有意であった。また、『就職情報の提供 (0.409)』と『就職報告会或いは経験交流会 (0.375)』は正值であり、有意水準 5% で有意であった。加えて、『親の意見 (0.557)』、『募集する企業の関連情報 (0.377)』と『学生参加型講座 (0.315)』は正值であり、有意水準 10% で有意であった。一方、『学年 (-0.647)』は負値であり、有意水準 1% で有意であった。なお、cut(cut-off point) は、cut1 と cut2 は有意水準 5% で有意であることが確認された。

以上の分析から、『参加したことのある就職指導教育』の中で、「就職指導教育課程」、「就職情報の提供」、「就職報告会或いは経験交流会」、「募集する企業の関連情報」、「学生参加型講座」の 5 つの要因が統計的に有意であり、キャリア教育の満足度に影響を及ぼすことが確認された。特に、その中でも「就職指導教育課程」が最も大きな影響を与え、尚且つこの科目に関しては中国の各大学では、国の政策のもとに必須科目として設けられているため、その特徴がもっとも著しくあらわされていると思われる。さらに、「学年」が上がるほど、キャリア教育の満足度が低下することが統計的に確認された。したがって、「学年」の低い時期からキャリア教育を進めていくことが重要であると推察される。加えて、「親の意見」がキャリア教育の満足度にプラスの影響を与えていることが確認された。これは、中国の大学生の独特な「家庭観念」から生じたものであり、家庭意識が強いほど、大学教育にも従じる可能性が高いのではないかと示唆される。

表8 分析結果

説明変数		パラメータ	t 値
性別		-0.248	-1.010
学年		-0.647***	-5.276
参加した経験のあるキャリア教育形式	就職指導教育課程(科目)	0.880***	4.316
	就職報告会或いは経験交流会	0.375**	1.962
	就職情報の提供	0.409**	1.995
	国内インターンシップ機会の提供		
	海外インターンシップ機会の提供		
	募集する企業の関連情報	0.377*	1.763
	更に自己分析できる講座		
	キャリアデザインに関する講座		
	社会人や卒業生と交流できる機会の提供		
	学生参加型講座	0.315*	1.644
	その他		
卒業後進路	就職		
	創業		
	進学		
職業選択に影響を及ぼす要因	親の意見	0.557*	1.676
	自分の興味	0.285	1.375
	友人の意見		
	先生の意見		
	社会の見方		
	社会の流れ		
cut1		-7.012***	-6.393
cut2		-3.575***	-7.421
cut3		-0.940**	-2.136

V. 終わりに

本研究では、中国の大学生を対象として、キャリア意識および職業観や大学におけるキャリア教育への満足度を測定し、さらに大学生の職業観の実態を把握した。現代中国における大学生の独特な職業観などが見られ、強い家庭意識やキャリアに関する必須科目への高い依頼度などが挙げられる。しかし、「外国語大学」の特徴については、統計的に見出すことができなかった。「95 後」「00 後」¹⁰ 世代は、一人っ子政策の代

表的な若年層人材でもあり、親世代も 1978 年以降の改革開放政策に恵まれて比較的豊かな生活環境であることは、中国国内の諸研究でも明らかにされている。そういった親や子供の特徴を念頭に置きながら、大学におけるキャリア教育や就職指導を行なうことが最も必要とされるのではないかと判断できる。

また、就職指導において、外国語といった専門知識のみならず、外国文化や外国での就職およびインターンシップなどと接する機会を積極

的に提供し、言わばグローバル人材を育成するにあたって、最も肝心なことは国際化意識を持ち、外国人と流暢な外国語で交流することだけでなく、その国の文化を理解した上でのコミュニケーションスキルを持たせるのが、重要な課題になっている。

最後に、地域差や就職先の情報なども調査項目に追加することで、中国における大学生のキャリア意識や就労意識の検討が深化することになる。こうしたことを踏まえ、質的データの収集ならびに詳細な実証分析を今後の課題として、他稿に譲りたい。

[注]

- 1) 例年は6月上旬であるが、2020年は新型コロナウイルスの影響により、1カ月ほど遅れて実施された。
- 2) 中国教育部公式サイト http://www.moe.gov.cn/srcsite/A07/moe_953/201508/t20150817_200583.html 参照 (検索日: 2020年6月20日)、著者訳。
- 3) 中国国务院公式サイト http://www.gov.cn/zhengce/content/2017-12/19/content_5248564.htm 参照 (検索日: 2020年6月20日)、著者訳。
- 4) 現在、中国の外国語大学の男女比率からみても、この数値は外国語大学の特徴を表示できるといえる。
- 5) 調査回答数は464部であり、日本語専攻は462名、残りの2名は日本語専攻ではないが、外国語大学の学生であるため、集計分析では有効とした。
- 6) 本調査は10月に開始し、中国の大学生は9月入学であるため、1年生は調査対象外とした。
- 7) www.wenjuan.com (検索日: 2019年9月16日)。
- 8) A.H. マズロー著・小口忠彦訳 (1987) 『人間性の心理学—モチベーションとパーソナリティ』, 産能大出版部。マズローの五段階欲求階層論は、生理の欲求・安全の欲求・社会的欲求・承認の欲求・自己実現の欲求という順に、人間は低レベルから高レベルへの欲求に成長していくとしている。
- 9) 中国語での調査項目にしたため、「どちらとも言えない」という表現は中国語で「一般満足」にし、予備調査での経験から、「一般満足」を選択した対象も不満足の原因について答えてもらった。
- 10) 「95後」は1995年以降に生まれた子、「00後」は2000年以降に生まれた子を指す。

参考文献

- [1] 凤四海、罗小涛 (2012) 「当代中国大学生职业价值观调查与分析」『西南民族大学学报(人文社会科学版)』218-220 頁。
- [2] 顾黎明 (2017) 「外语类高校大学生职业生涯规划倾向分析及引导策略」『北京印刷学院学报』第25卷第4期, 163-165 頁。
- [3] 黄雪娜 (2012) 「当代大学生职业价值观质性探讨」『科技与社会』, 44-49 頁。
- [4] 黄雪娜、金盛华、张爽 (2014) 「当代大学生职业价值观定量分析与对策研究」『辽宁大学学报(哲学社会科学版)』第42卷第4期, 186-192 頁。
- [5] 杨俊、付文、奂婷婷、鲜耀 (2017) 「以职业生涯规划为载体的外语专业大学生理想信念教育研究」『四川文理学院学报』第27卷第3期, 140-143 頁。
- [6] 坂柳恒夫 (1996) 「大学生のキャリア成熟に関する研究—キャリア・レディネス尺度(CRS)の信頼性と妥当性の検討—」『愛知教育大学教科教育センター研究報告』第20号, 9-18 頁。
- [7] 朴慧淑・九門大士・于飛 (2020) 「中国の大学における就職支援・キャリア教育のとらえ方について—大連外国語大学の学生意識調査を中心に—」『亜細亜研究』第105号, 53-70 頁。
- [8] 渡邊憲二・朴慧淑・于飛 (2020) 「中国における大学生の進路選択と就労意識に関する実証分析」『岡山商大論叢』第56巻第2号, 111-124 頁。

Survey on career awareness of university students

-Take China's University of Foreign Studies as an example-

Huishu Piao

Dalian University of Foreign Language

Kenji Watanabe

Okayama Shoka University

abstract :

This study conducted a comprehensive survey on career education and career awareness among 464 university students from six foreign language universities in China. Specifically, the survey investigated career education content, career consciousness as well as employment consciousness of university students and emphasized the necessity of career support for university students in China. The survey results indicate that student career satisfaction changes depending on the grade in which they receive career education-related guidance. In addition, career support demand is increasingly exploding and diversifying. This research aims at proposing effective suggestions of career support for students at foreign language universities in China and that there will be massive practical significance on job hunting activities of university students.

keywords : China University, career education, career consciousness